

若手アーティストが育つ魅力ある大阪に

大阪中之島美術館×関西・大阪21世紀協会 共同企画

Osaka Directory

supported by RICHARD MILLE

おおさかディレクトリ



第4期 小谷 くるみ / 2023年11月18日(土)～12月17日(日)

第5期 肥後 亮祐 / 2023年12月23日(土)～2024年1月21日(日)

第6期 木原 結花 / 2024年1月27日(土)～2月25日(日)

◆会場：大阪中之島美術館 2階多目的スペース(入場無料/ただし本企画のみ)

◆主催：大阪中之島美術館、公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

◆supported by RICHARD MILLE

◆協賛：サントリーホールディングス株式会社、ロート製薬株式会社、大和証券株式会社、西日本電信電話株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社丹青社

関西・大阪21世紀協会は、文化の担い手を育てる活動のひとつとして、若手アーティストの発表の機会の提供や、創作活動の支援を行っています。昨年、当協会設立40周年記念事業として大阪中之島美術館と共同で「Osaka Directory supported by RICHARD MILLE」を開催し、約4万人の方が来場されました。

本展覧会は、関西ゆかりの若手アーティストの作品を個展形式で紹介するもので、今年度も3人のアーティストを取り上げています。プロジェクト名の「Directory」は、英語で「名鑑」、IT用語ではデータを保存するフォルダを

意味し、この展覧会を重ねていくことで、関西ゆかりの「アーティスト名鑑」になればとの思いが込められています。

当協会は、この取り組みを通して、関西・大阪のアートシーンを活性化し、若く才能あるアーティストが国内外へと飛躍する「アーティストが育ち、活躍する都市」への貢献を目指しています。今回紹介する3人は全員20代。これからの時代を象徴する新たな表現を生み出す新進気鋭のアーティストの世界観をぜひお楽しみください。

出展アーティスト コメント



撮影：Hanako Kimura

こ ば や
小谷 くるみ

第4期

2023年11月18日(土)～
12月17日(日)

存在の痕跡や気配に関心

“人は死の瞬間に体重が21g減る”という話を基にした《21gの存在》シリーズや、地中の堆積物を人類の痕跡とする《錆》シリーズなど、存在そのものではなく、その痕跡や気配といった不確かなものに惹かれて作品化しています。最近のメインテーマは“ヒトとは何か”。自分が作ってきたさまざまな作品を振り返ったときに、何かフワッと“小谷はこういうことを考えているのかもしれない”と伝われば最高だと思っています。人生初の美術館内でのソロエキシビジョンですので、間違いなく私の作家人生のターニングポイントになるでしょう。会場は、これまでのホワイトキューブ(周囲を壁で囲まれた展示空間)と

違って透明ガラスで外界と仕切れおり、その空間に合わせて組み立てる制作プロセスも新鮮で面白いと感じています。メインテーマは変わりませんが、場所とともに少し変化した新しい表現を披露できればと思っています。



《21g》2020年
撮影：Gallery Nomart

プロフィール

1994年大阪府生まれ。2017年京都造形芸術大学油画コース卒業。2019年京都造形芸術大学大学院修士課程修了。主な展覧会歴は、個展「21gの存在」(枚方国際ゴルフ倶楽部、大阪/2018年)、京都造形芸術大学卒業制作選抜展「宇宙船地球号」(東京都美術館/2019年)、「大鬼の住む島」(WAITINGROOM、東京/同年)、個展「砂から星へ」(ギャラリーノマル、大阪/2021年)、Since 1989 NOMART —アーティスト×工房展—(銀座SIX、東京/2022年)、個展「ヘーパイストス」(ギャラリーノマル、大阪/同年)。



ひご りょうすけ
肥後 亮祐

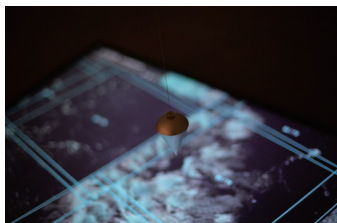
第5期

2023年12月23日(土)～
2024年1月21日(日)

情報の盲点(遺物)を作品化

“Google Map上に誤記載された幻島”や“実在しない英単語”など、流通する情報の盲点を遺物と捉え、社会や個人が無自覚にまたは意図的に作り出す事象や状況を考察し制作してきました。コロナという大きな変化要因に対して、時代は新しさというよりはむしろ古いものへ回帰しているように感じました。近代以降に成立した制度やシステムに綻びのようなものを感じ、古い虚構が新しい虚構に取って代わっただけなのかもしれないという思いです。その意味で、近代以前のメディアに対する興味や、近代以後に成立した制度への系譜に対する関心が高まりました。

大阪中之島美術館については、建設される以前からどんな美術館になるのか注目していましたが、まさか自分が展示の機会を頂けるとは思いもしなかったので大変驚きました。展示会場はホワイトキューブと異なるパブリックな空間なので、その空間性を生かしながら作品の構成を考えたいと思っています。また、作者である私の意図しないところで、来場者どうしの偶然の居合わせのようなことが起こればいいと思っています。



《Sandy Island》「クリテリウム97 肥後亮祐」展示風景 2020年
水戸芸術館現代美術ギャラリー 撮影：仲田絵美

プロフィール

1995年北海道生まれ。現在、京都市立芸術大学大学院博士(後期)課程構想設計領域在学。主な展覧会歴は、「写真新世紀展2018」(東京都写真美術館、東京/2018年)、「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2019 KG+」(GALLERY Ann、京都/2019年)、個展「クリテリウム97 肥後亮祐」(水戸芸術館現代美術ギャラリー、茨城/2020年)。受賞歴は、「Kyoto Art for Tomorrow 2021 一京都府新鋭選抜展—優秀賞」(京都文化博物館、京都/2021年)、第41回公募キヤノン写真新世紀2018佳作(2018年)。



きほら ゆい か
木原 結花

第6期

2024年1月27日(土)～
2月25日(日)

何者でもない存在を体験

ただ生きているだけでも体力と気力とお金は失われていくのに、そこに創作活動をプラスされると全てがギリギリです。その中で自分に何が作ることができるのか。文化や芸術が人に与えるものは、人それぞれだと思いますが、私自身はそれらに触れている時は現実から逃避することができるため、大変ありがたい存在です。作品を通じて伝えたいこと、感じてほしいことを言葉にするのは難しいですが、作品を目の前にしたとき、自分自身でも、作品の作者でもない、何者でもない存在になるような感覚を覚えるときがあります。大変難しいことなのですが、私の作品でそのような体験をつくるができたらいつも考えています。

本展覧会に選んでいただき、とても光栄に思います。今までとは違う展示会場ですが、やり遂げることができたらと思います。



《行旅死亡人(大阪府平野区長吉川辺3丁目1番新明治橋下空き地)》2017年

プロフィール

1995年大阪府生まれ。2019年大阪芸術大学大学院芸術研究科博士課程前期修了。主な展覧会歴は、第15回写真「1_WALL」ファイナリスト展(2016年)、A-Lab Artist Gate 2017(あまらぶアートラボ、兵庫/2017年)、「写真的曖昧」(金沢アートグミ、石川/2018年)、Belfast Photo Festival(北アイルランド/2019年)、あざみ野フォト・アニユアル とどまってみるもの(横浜市民ギャラリーあざみ野、神奈川/2021年)、DAZZLER(京都芸術センター、京都/2022年)。大阪芸術大学写真学科平成28年度卒業制作展学長賞(2017年)。

大阪中之島美術館

大阪市北区中之島4-3-1 TEL. 06-4301-7285(大阪市総合コールセンター)

- 開場時間 10:00-17:00(ただし2024年2月10日から2月25日までは-18:00) 月曜日休館(休日の場合は翌平日)
- アクセス
 - ・京阪中之島線渡辺橋駅(2番出口)より徒歩約5分
 - ・Osaka Metro四つ橋線肥後橋駅(4番出口)より徒歩約10分
 - ・JR大阪環状線福島駅/東西線新福島駅(2番出口)より徒歩約10分
 - ・阪神福島駅より徒歩約10分

